

**北海道科学大学**  
**教学 IR に関する活動報告書**

2025 年 9 月

## 北海道科学大学の教学 IR に関する年次活動報告書

この報告書は、北海道科学大学（以下本学）の教学 IR 活動の概要を自己点検 IR 委員会でまとめたものです。本学の教学 IR 活動に関する報告としては、2022 年度に近年の本学における主要な活動の内容をまとめた報告書を初めて作成し、学外公開しております。2025 年度版となる本報告書は、2024 年度版に続き年次報告書という位置づけで作成しており、主に昨年度版からの更新・変更点を報告するものになります。従前から継続している教学 IR 活動に関しては、[2022 年度版の報告書](#)をぜひご参照下さい。

### 1. 自己点検 IR 委員会の業務と本学の教学 IR 活動について

自己点検 IR 委員会は、本学の内部質保証の責任を負う自己点検・評価委員会（委員長は学長）の下部組織であり、自己点検・評価委員会の求めに応じ、自己点検・評価のための情報収集、整理を支援するとともに、教学 IR 活動を行う委員会です。

#### 【自己点検 IR 委員会の活動方針】

本学の内部質保証の方針(<https://www.hus.ac.jp/about/project/evaluation/>)に則り、内部質保証に関する活動や自己点検・評価委員会の活動をサポートする役割を担います。

本学の教学 IR は分散型の IR であり、自己点検 IR 委員会の業務は大学全体の教学 IR 活動の一部といえます。自己点検 IR 委員会では、学内各部署で作成された教学に関するデータのうち、本学のアセスメントプランで定められた 3 ポリシーを起点とする学修成果、教育成果の点検に関係するデータについて、集約し分析を行うとともに、大学全体及び各学部学科が行う点検向け資料として整理し配信しています。

※本学のアセスメントプラン(<https://www.hus.ac.jp/about/info/assessment-plan/>)

#### 【2025 年度の活動計画（教学 IR に関連する内容）】

- ① 学修成果の評価とその可視化（中期事業計画「I-4.学修成果の可視化と活用」）
  - 学修ポートフォリオ(UNIPA 上)の整備
  - 学位プログラムを通じた学修成果の把握に向けた取り組み
  - 共通長期ルーブリックの活用
  - 外部試験（PROG 継続等）の検討
  - 大学院内部質保証に向けた整備
- ② 質保証について、組織内の理解を促し、組織文化として定着を図る
  - 内部質保証と教学マネジメント指針の浸透、FD・SD の実施
- ③ 活動報告作成公開、IR に関する研修会主催
- ④ 機関別認証評価受審に向けた準備
  - 自己点検評価報告書の作成・公開、外部評価受審支援

## 2. 教学 IR に関連する活動

表 1 自己点検 IR 委員会の教学 IR に関連する活動スケジュール

時期	活動	連携部署
3 月末～4 月	教育目的達成度調査	
5 月（～10 月）	PROG（1 年生、3・4 年生）	キャリア支援 C
5 月	大学 IR コンソーシアム大学データ・学生データ登録	
6 月（～7 月）	PF 個別面談（学修成果について）	学生支援 C
7 月（～9 月）	卒業生調査、企業調査、連携協定団体との協議	キャリア支援 C
7 月（～9 月）	学科教育自己点検会議（3 ポリシーとカリキュラム）	
7 月	教学関連データの集約と配信	学生支援 C、 FD 委員会
9 月（～11 月）	学生生活調査（全国学生調査・大学 IR コンソ学生調査）	学生支援 C
12 月	学科教育自己点検会議（シラバス点検）	
12 月（～3 月）	卒業時調査（全国学生調査）	
2 月又は 3 月	学科長による総括報告会	
2 月	大学 IR コンソーシアム大学学生調査データ登録	

2024 年～2025 年にかけても、上記のスケジュールの通りに、本学の学修成果や教育効果の評価を行う際に活用する学生調査や外部試験等を実施しています。各学生調査や外部試験の概要については、[2022 年度版の報告書](#)をご参照下さい。さらに、学科教育自己点検会議向け資料の学科への提供など、教学 IR に関する分析と学内部局への情報配信を行っています。本報告書及び昨年度の報告書で取り上げなかった集計結果等については、本学ホームページの「[情報公開：教育の質に係る客観的指標](#)」にて公開していますのでこちらで確認下さい。

## 3. 教学 IR データを用いたモニタリングと分析例

ここでは、2024 年～2025 年にかけて、自己点検 IR 委員会が行った教学 IR に関する分析や、学内部局への情報配信の事例のうち、2022 年度版に含まれない事例を紹介します。

### 3.1. 大学 IR コンソーシアム（学生生活）調査・全国学生調査（卒業時調査）（2021 年度～2024 年度の比較）

本学は 2014 年より大学 IR コンソーシアム（<https://irnw.jp/>）に加盟しており、コンソーシアム内共通の学生調査を、学生の満足度や能力伸長に関するモニタリングに活用しています。本学固有設問を加えて例年通り調査を実施した学年（2 年次卒業年次を除く）につ

いては、結果の経年比較に基づき分析を行っています。一方、2024 年度は全国学生調査試行実施に大学として参加したため、2 年次生と卒業年次生については全国学生調査の設問に本学固有設問を加えて調査を実施しました。これらの学年の結果については、大学 IR コンソーシアム学生調査から継続して比較が可能と考えられる設問について、経年比較に基づく分析を行っています。主な結果は次の通りです。

- ・ 回答率は、年度、学年により差（2024 年度卒業時調査は非常に高い）
- ・ 学生生活の充実度、授業の質など、例年と同様の水準で上昇傾向も
- ・ インターネットの使いやすさについては、即時性と安定性を求める学生からの要望が年々高くなっている
- ・ 授業外学修時間は横這い、アルバイト時間の増加傾向も継続
- ・ HUS スタンダード科目の効果か、異文化の人々に関する知識、リーダーシップの能力が全学的には上昇、その他も例年と同水準
- ・ 僅かずつ分析力や問題解決能力、専門分野や学科の知識、批判的に考える能力が上昇
- ・ アクティブラーニングの要素、TA や SA からの授業補助が増加傾向
- ・ 卒業時調査に卒業研究に関する時間設問追加

学生生活の充実度

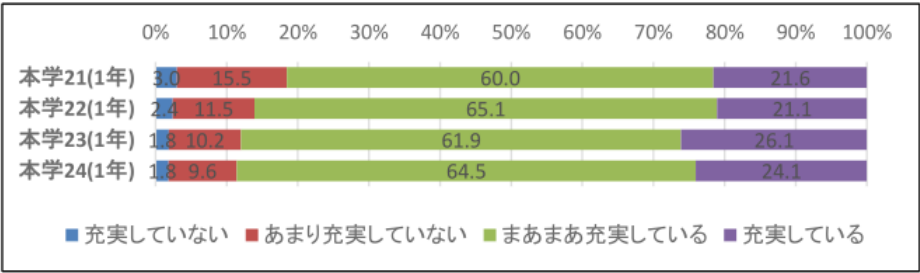


図 1 集計結果の比較例 1 1 年次生経年比較

学生生活の充実度

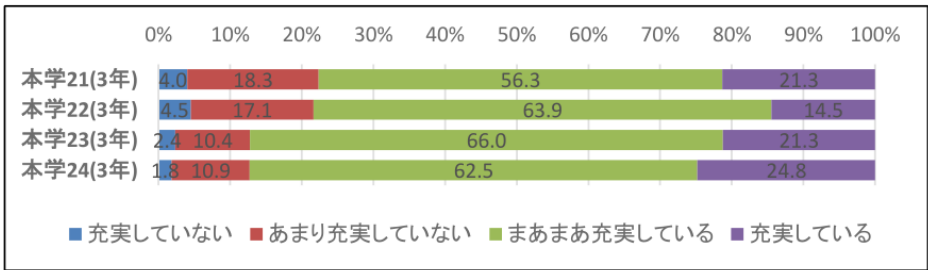
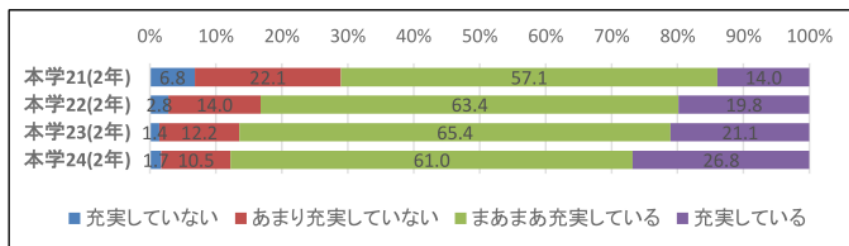
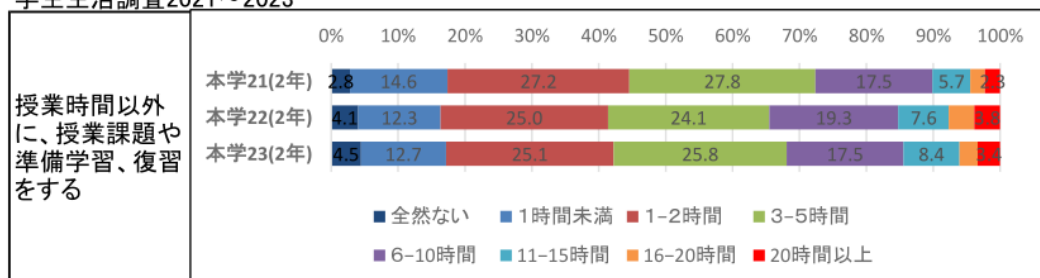


図 1 集計結果の比較例 2 3 年次生の経年比較

## 学生生活の充実度



## 学生生活調査2021～2023



## 全国学生調査2024

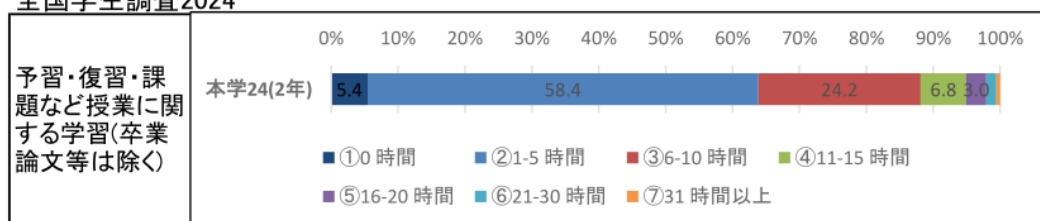
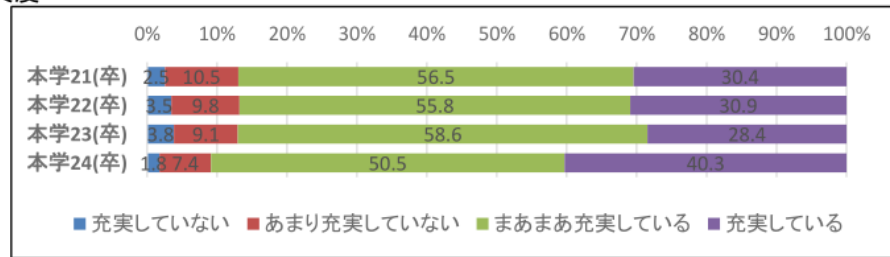
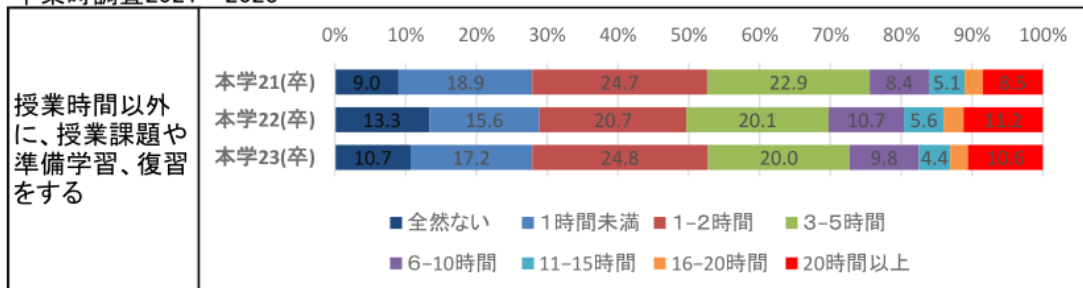


図1 集計結果の比較例3 2年次生の経年比較

## 学生生活の充実度



## 卒業時調査2021～2023



## 卒業時全国調査2024

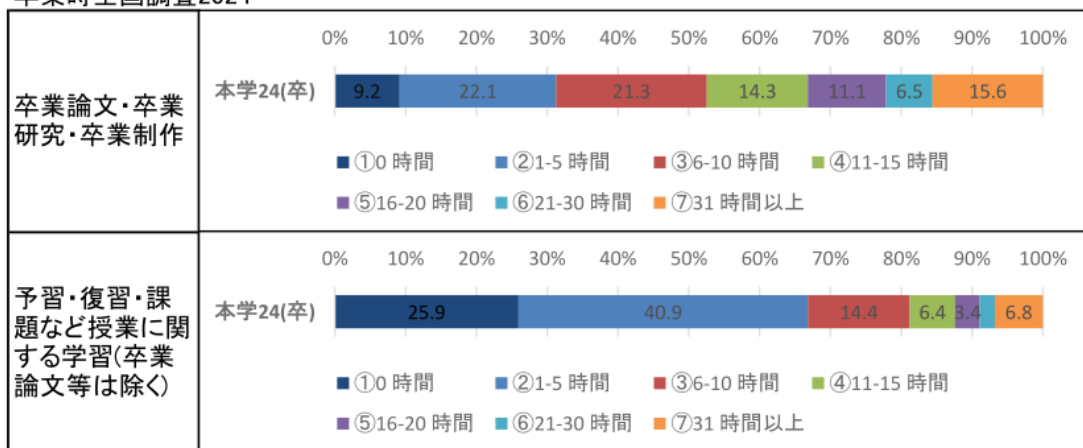


図 1 集計結果の比較例 4 卒業年次生の経年比較

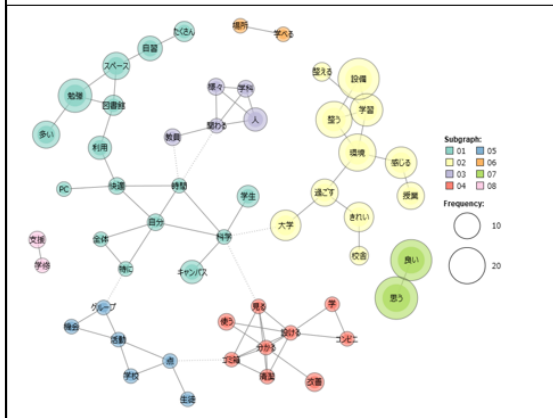
【自由記述】20%～25%ほどの回答

- ・ 年々改善要望が具体化、多様化回答率：上昇傾向、年度、学年により差（2024 年度卒業時調査は高い）

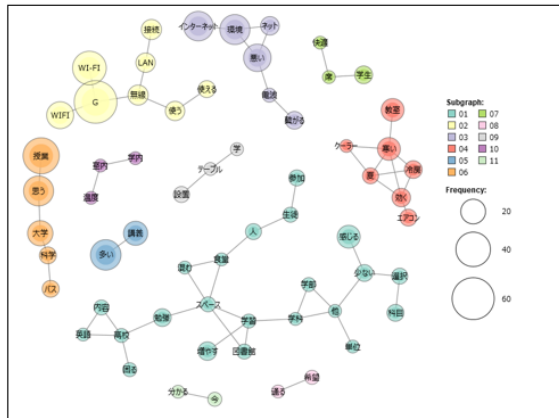
## 学生生活調査、全国学生調査、自由記述のまとめ

### 1 年生 良い点（左）改善点（右）

※コメント数の多いものほど○が大きい  
※同時に使われた回数の多い単語間をより太い線で結ぶ

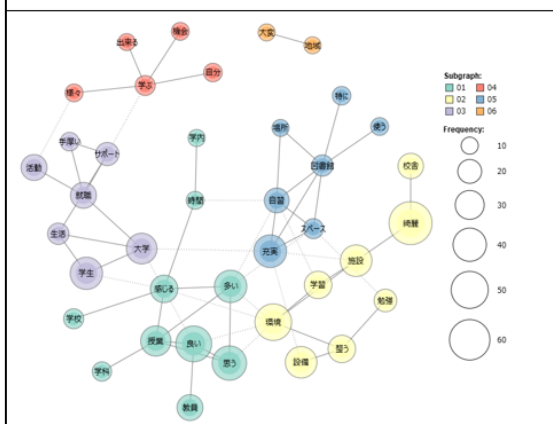


- ・ キャンパス設備（充実、新しい、清掃）
- ・ 学習スペース（図書館含む）
- ・ 学修支援、グループ活動の機会

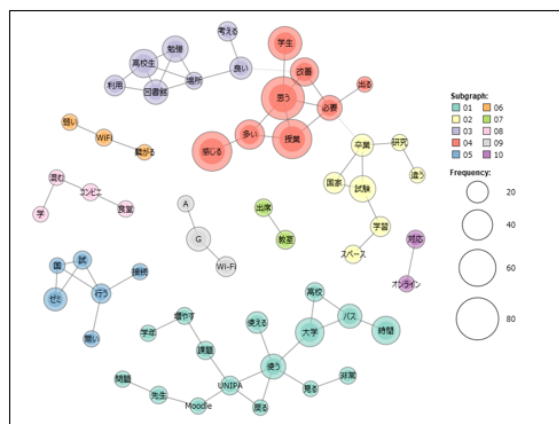


- ・ 学内ネットワーク環境（G棟無線・有線）
- ・ 高校との施設共有（図書館、学食、コンビニ、バス）
- ・ 空調調節

### 卒業年次生 良い点（左）改善点（右）



- ・ キャンパス設備
- ・ 学習スペース（図書館含む）
- ・ 就職サポート・指導
- ・ 授業、教育指導



- ・ 学内ネットワーク環境（WiFi、学習支援システム）
- ・ 高校との施設共有（図書館、学食、コンビニ、バス）
- ・ 卒業研究、国家資格試験準備への接続
- ・ オンライン対応

図 2 自由記述分析例

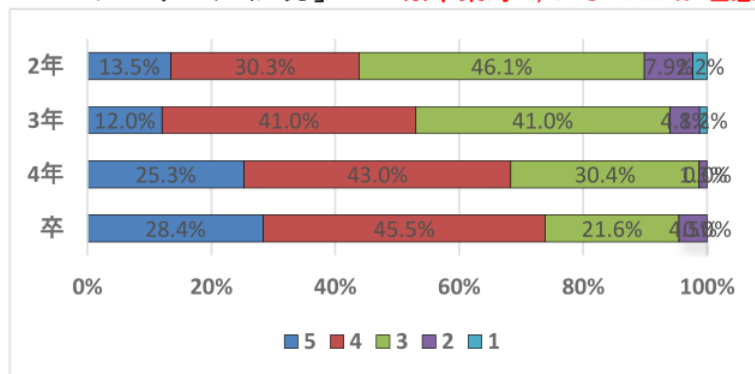
## 3.2. DP 達成度自己評価の経年変化

本学のアセスメントプランでは、学生を対象とする評価として、「教育目的達成度調査」および「卒業時調査」による DP の達成度合いの自己評価を活用することを定めています。

また、それらの集計結果を、学位プログラム全体の教育効果を評価する間接的なエビデンスとして活用することを定めています。2024 年度卒業生についての DP 達成度自己評価の経年変化（2 年進級時～卒業時）を紹介します。

{5. 十分達成できた, 4. ほぼ達成できた, 3. ある程度達成できた, 2. あまり達成できていない, 1. ほとんど達成できていない}

「1. コミュニケーション力」 ※卒業時 4, 5 で 100% が理想



「5. 専門的知識・技能を習得し、実践する力」

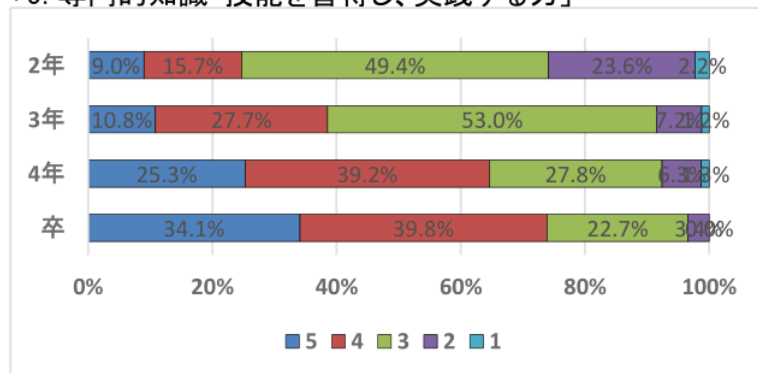


図 3 DP 達成度集計例

本学の DP は全学共通の 6 項目（表 2：DP 大項目 2023 年度入学生まで）で構成しており、その具体的な能力資質は、学科ごとの DP として詳しく文章化しています。この集計結果では、学科や DP の項目によって多少の差がありますが、図 3 のように卒業時に向けて年次とともに達成度が高い学生の比率が増加する傾向が全学的に確認できます。これらは間接的な評価に基づく情報であるとともに、結果には一部の学生の達成度認識が不十分という不安要素も含まれますが、全体的には本学の教育効果として学生に DP 達成に対する認識を高める効果があることを示していると考えています。



表 2 DP 大項目（2023 年度入学生まで）

DP1	コミュニケーション力
DP2	課題を発見し、問題を解決する力
DP3	自らを律し、学び続ける力
DP4	他者と協力して目的を達成する力
DP5	専門的知識・技能を習得し、実践する力
DP6	総合力

なお、本学のアセスメントプランでは評価に長期ルーブリックを活用することを定めています。2018 年には共通長期ルーブリックの雛形を策定したもののその時点では運用まで至っていないため、2024 年からの新ポリシー・新カリキュラム始動を見据えて、中期事業計画「アセスメント・ポリシーの実質化」の一環として、大学全体の共通長期ルーブリックの検討を自己点検 IR 委員会にて行い、2022 年度に本委員会にて共通長期ルーブリック案を策定しました。ルーブリックは、運用しながらその評価内容や水準を継続して改善していくものになります。2024 年度からスタートした新しい全学共通科目群「HUS スタンダード科目」および各学科の新カリキュラムの教育効果の評価においては、上記学生調査における 5 段階の DP 達成度自己評価に代わって、より客観性を高めた表 3 のような共通長期ルーブリック（薬学部では学科で作成した固有長期ルーブリック）を使用した自己評価を開始しました。

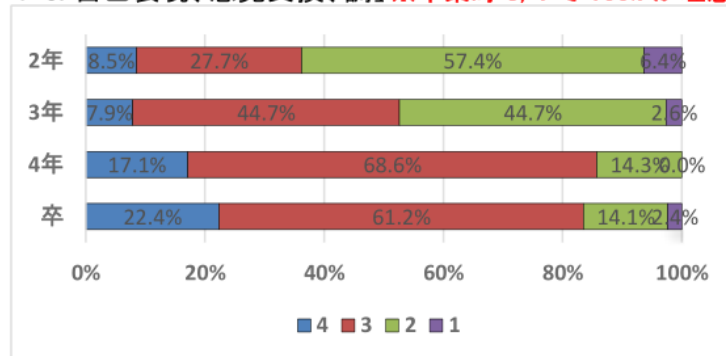
表 3 共通長期ルーブリック

大項目	中項目	キャップストーン		マイルストーン		ベンチマーク
		LV4	LV3	LV2	LV1	LV1
コミュニケーション力	【日本語力】	・構文・文法、用語法の誤りがなく、必要な情報を理解し、まとめ、目的に応じた適切な方法で明快に表現することができる。 ・背景と目的に関連した内容を用い、論理的な展開によって、説得力のある主張や結論を伝える発表ができる。	・構文・文法、用語法の誤りがほとんどなく、必要な情報を理解し、まとめ、目的に応じた適切な方法で正確に表現することができる。 ・背景と目的に関連した内容を用い、相手に主張や結論を伝える発表ができる。	・構文・文法、用語法の誤りが一部見られるものの、必要な情報を理解し、まとめ、目的に応じた方法で表現することができる。 ・背景や目的に関連した内容を用い、相手に主張や結論の一部を伝えることができる。	・構文・文法、用語法の誤りが一部見られるものの、必要な情報を理解し、まとめ、指定された方法で表現することができる。 ・背景や目的に関連した内容と結果を相手に伝えることができる。	
	【外国語力】	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。（CEFR-J B2 程度（表現力のみ記載））	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語る事ができる。（CEFR-J B1 程度（表現力のみ記載））	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。（CEFR-J A2 程度（表現力のみ記載））	住んでいるところ、また、知っている人々について、簡単な語句や文を使って表現できる。（CEFR-J A1 程度（表現力のみ記載））	
	【自己表現、意見交換、調整力】	・自分の意見をわかりやすく伝えるためにさまざまな方法を使うことができる。 ・他者の発言や文章の内容を理解した上で、自分と他者の主張の接点を見出し一つの意見としてまとめる調整ができる	・時間や字数などの決められた条件のもとで、自分の意見を述べる事ができる。 ・他者の発言や文章の内容を理解し、自分と他者の主張の接点を見出し一つの意見としてまとめる努力ができる	・議論や話し合いなどにおいて、積極的に自分の意見を述べる事ができる。 ・他者の意見と自分の意見の違いを認識し一つの意見としてまとめる努力ができる。	・議論や話し合いなどにおいて、自分の意見を述べる事ができる。 ・他者の意見より自分の考えを優先して一つにまとめようとしている。	

次の結果は 2024 年度入学生に適用する前の試験的な運用として、2021 年度入学生向けに行った長期ルーブリックを用いた学生の自己評価の経年変化の例になります。

## 共通長期ルーブリック案を用いた自己評価

### 1-3. 自己表現、意見交換、調整 ※卒業時 3, 4 で 100% が理想



### 3-2. 自己管理能力

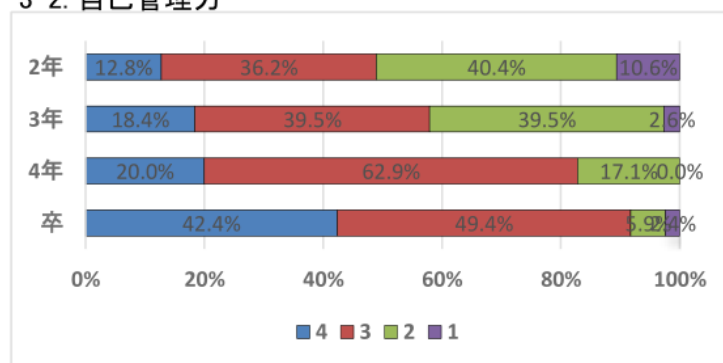


図4 共通長期ルーブリックを用いた DP 達成度集計例

## 3.3. 活用事例

最近の教学 IR 活動の活用事例をまとめると次のようになります。

### 【大学全体の評価について】

- 学生生活調査及び卒業生調査の集計結果・自由記述内容を各担当部署へフィードバックすることによって、次のような改善施策が行われています。
  - ・ G 棟への無線 LAN 設備の導入
  - ・ 学習スペースの確保
  - ・ 学生向けカラープリンターの教室外設置
  - ・ 学内ネットワークの回線強化
  - ・ 図書館リニューアル（100 周年記念会館）、適切な図書館利用に向けた啓蒙指導
  - ・ 学生対応・ハラスメント防止のための全学 FD・SD 講演

- 学科長による総括報告会における課題報告がきっかけとなり、2024 年度からの新カリキュラム策定に際して、全学共通のディプロマ・ポリシー大項目の一部変更や、新しい全学共通科目群「HUS スタANDARD」の策定を行っています。

#### 【学科（教育課程）と授業に関する評価】

- 毎年実施する学科教育自己点検会議における検討内容を活用して、2024 年度からの新カリキュラム策定を行い、科目の位置づけの変更や科目の統合改廃を行っています。

#### 【学生を対象とする評価】

- PF 個別面談の際の学修ポートフォリオを用いた形成的な学修成果の振り返りによって、学生に自身の所属する学科のディプロマ・ポリシーや育成する人材像の認識が高まっていると考えています。

## 4. まとめと今後に向けて

この報告書では、本学の教学 IR 活動の概要として、2023 年～2025 年にかけて行われている自己点検 IR 委員会による教学 IR 活動を報告しました。

本学の教学 IR 活動の高度化と更なる充実に向けて、今後は次の点に取り組む予定です。

- ・ 中期事業計画「I-4.学修成果の可視化と活用」(学位プログラム全体にわたる専攻分野固有のコンピテンシーや学修成果を直接評価する情報の検討と可視化、共通長期ルーブリックの活用、学科固有長期ルーブリックの作成)
- ・ データの収集・整理・加工・配信・閲覧のシステム化及び web 化（試験的なデータベースの構築、資料作成のシステム化、配信の web 及び BI ツールの活用、学科教学 IR ポートフォリオや科目コースポートフォリオの実現）
- ・ 分析対象の拡大（学籍異動学生の分析、エンロールメント・マネジメント IR、在学中に能力伸長した学生の分析、卒後活躍している人材の分析）
- ・ 分散協力方式の教学 IR の発展（学修ポートフォリオ機能強化、デジタルバッジ、教育イノベーションセンターの IR 機能）
- ・ 教育に関する内部質保証の考え方の教職員への浸透と、IR に関する専門人材・後継人材の育成
- ・ 内部質保証の機能化に向けた IR の高度化（財務 IR との連携強化、大学運営に関する自己点検・評価活動との連携）

以上